

パンタナール通信

一般社団法人 南北米福地開発協会 会報 2019年6月1日 189号
世界平和地球村の建設と自然環境の保護

第7回パクー放流式 Siembra de Pacú, Puerto Leda



第7回パクー稚魚放流現場に集合した、オリンポ市の学生、教師、レダ基地スタッフ、ほか。5月10日 レダ基地。



学生たち自ら放流用のパクーを網で囲い集める。



集めたパクーを川岸に運ぶ。



放流するパクーを手にする学生たち。

「生涯忘れられない経験！」

五月十日、レダ基地で毎年恒例となっているパクーの放流式を行いました。今回はオリンポ市の高校生と教師を迎え、若い活気に溢れた式典となりました。参加した学生たちは、養殖池に網を持って入り、魚を取り出すという異例の作業も体験。式典後の彼らの感想は「この放流式は生涯忘れられない経験となりました！」

まず今回の放流式では、若者たち自らの手で放流を体験してもらうことを主眼としました。参加者全員が放流することはもちろん、多くの若者が参加できるように、毎週金曜日に通過する定期貨客船アキダバンでレダへ往復できるように計画しました。オリンポの高校では、校長先生をはじめ、教師と学生たちが指折り数えて、その日を待っていたと言います。当初は五月三日を予定したのですが、天候が悪く、翌週に延期。幸い五月十日は、好天に恵まりました。

十日午前二時、オリンポからの学生三十一名と先生方三名が到着。準備しておいた部屋で休んでももらいました。朝食後、大ホールで中田所長、佐野氏、岩澤氏が、稚魚放流の意義と「皆さんが住むこの地のすばらしさ」について語りました。そして養殖池に案内し、池からパクーを取り出す作業を説明。彼らは興奮しながら、喜んで作業してくれました。今回は大きめに育った若魚を放流します。そのパクーを川岸まで運び、自らの手でパラグアイ川に放ちました！

続いては、レダ基地の施設見学。農場、タロイモ田、魚肉工房など、興味が尽きません。

昼食後、レダとオリンポの青年が、歌やダンスを披露し合い、楽しく交流しました。その後、自由時間となり、皆一斉にプールへ直行。きれいで安全な水に初めて入った若者たちは、歓声を上げて、思い切り泳いでいました。

今回の放流式では、経費が低くて済んだのですが、予想以上に素晴らしい式典となりました。帰りの船が遅れて夜になったので、夕食も急遽準備しました。レダの青年と研究生たちが大活躍してくれたことも、特筆したいと思います。



岩澤さん母娘が日本に出発するのを見送る。5月8日



今レダ基地では

放流式に参加したオリンポの学生と先生方。5月10日



アキダバンの船上でパカー製品を販売。5月3日



豚を販売する土弘君。



小橋氏がパカー製品などを説明。5月10日



堀さんが釣ったスルビは80cm、5kg。



天然パカーの大物を釣った西山さん。



冬に備え、エビを池から温かい水槽に移す。



水田展聖君を歓迎するケーキ。4月15日



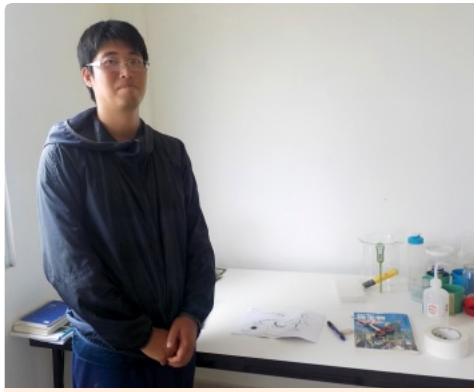
佐野氏と共にレダに到着した水田君（左から3人目）4月15日

自然の原則は、「為に生き合う」ことです

去る三月十三日、中期ボランティアとしてレダ基地で奉仕活動をして来た、米田義明君と諏訪泰弘君が元気づけ帰国したことを、前号でお伝えしました。今回は、レダで約一年間活動した米田君の感想です。

レダでの感想 二〇一九年三月十四日 米田義明

★全般…先生方と共に作業をしながら、先生方の後の苦労であったり、今もなお先頭に立って歩んでいる姿を見て、自分が先生方を支えていけないといけない、とすごく感じました。レダで立派な建物や養殖池など、当初は何もなかった状態から築き上げたことに、誇りを感じました。パンタナールの自然は豊かで、自分も自然の中の一存在なんだなど、感じました。



米田君。実験・研究の生物の微生物

他方、日本には当たり前にあるものがない環境でしたが、日本では体験できないことを体験できました。★担当したこと…豚の世話、微生物の実験、養殖の管理、野菜の世話、などです。

★それに対する評価と教訓…野菜の世話では、最後の四か月をかけて、スイカが美味しくできました。本を読みながら農作業をしたのですが、畝を作り、マルチを敷いてやること、毎日朝夕の水やりを忘れずにしました。また

最初にできる花は摘み取った方がよく、大きくて美味しいスイカができるのは、蔓の何節目〜何節目の間であると書いてあったので、その通り



美味しいスイカを実らせる。

にしたなら、美味しくできました。教訓としては、何も知らないまま試行錯誤でやるより、良い本や文献などを参考にするといいと思います。養殖の管理では、すでに成されていたことが多く、私の作業は現状をよく維持することでした。トラックの運転ができれば、できないことはほとんどないと思います。また、労働者たちがいるので、常に彼らと共に働く必要があります。日中は二〜三時間ご



米田君。2人目が左から2人目が田君。作業する青年たち。タロイモ

とに給水ポンプにガソリンを補給するのですが、ポンプは常に動かすので壊れやすいです。養殖池を休ませればいいのですが、ただ休ませてもいけないので、タロイモを栽

培するとか、継続して担当する人が必要になります。微生物の実験では、レダにおいて微生物を増やすことができることがわかりました。バイオフィロックスもできそうです。養殖においては環境に悪い影響を与えないよう、こうした技術をよく研究して行かないといけません。微生物を培養し、観察していると目に見えない生きものでも、為に生き合っていることが分かります。微生物が植物に栄養素を与え、植物が微生物に栄養素を与えながら共存しているのです。これが自然の原則なので、人間も為に生き合うことが当たり前にならないといけないと思いました。(注…バイオフィロックスとは、魚やエビの養殖池の水中に人為的に作る微生物の固まり。有害なアンモニ

アや亜硝酸を減少させる効果があり、バイオフィロックス自体もタンパク源として飼料になる。)豚の世話をしながら、生命の尊さなどを実感することができました。レティロ、豚ランド、コラール、それぞれの場所に餌を持って行くと、豚たちが集まっ



美味しい。ジャウー。とても美味しい。子豚がすごくかわいくてよかったです。しかしすぐに子豚を移動させないと、他の豚に食べられたりしてしま

うので、それが可哀そうだなと思いましたが、それが自然の定めなんだなと思いました。子供から育てて行くのと、愛着もわい



3月11日。帰国と共に君と諏訪

★意見と提案…レダに行く青年が途切れないようにしてほしいです。毎年レダの最新プロモーションビデオがあったらいいかもしれません。

★今後の抱負…農業関係に携わって行きたいと考えています。まず資金作りをしつつ、自動車運転免許を取得、修練会に参加し、祝福結婚を受け、二年後にレダに行こうと考えています。

第十九回パンタナール一日研修会報告

去る四月二十七日(土)、午前十時二十分から午後四時すぎまで、第十九回パンタナール一日研修会(ワンデイセミナー)を、東京代々木のオリンピックク記念青少年総合センター、センター棟四〇三号室(定員80名)で開催しました。窓からは、萌える新緑の木々が目に飛び込んでくる部屋です。今回が平成最後のパンタナールセミナーとなりました。

当初の参加予定人数は82名(一般参加者51名、特別会員12名、実行スタッフ19名)でしたが、当日参加申し込みもあり、合計83名(一般参加者50名、特別会員15名、実行スタッフ18名)でした。

セミナーは、実行委員長の挨拶に始まり、まず柴沼邦彦先生による「レバランド・ムーンの思想とレダ開発」の講義。提唱者文先生の「何事にも精诚を尽し、すべてを丸ごと飲み込むパンタナール精神」を軸に、初期のレダ基地での過酷な生活が写真と動画を交えて紹介され、参加者皆が感動していました。午前の講義の後、棟の外に出て、新緑に囲まれた

階段で全体記念写真撮影し、その後青少年総合センター内の食堂で昼食に入りました。

午後のプログラムは十二時四十分から、高辻章子さんの歌う「パンタナール賛歌」で始まり、「地球の緑を守る会」代表理事の高津啓洋先生による講義は、参加者たちを南米パンタナールに生息する様々な動物(巨大タガメ、カイマンワニの頭蓋骨、ピラニ



アの剥製、ガラガラ蛇のしっぽ等)の標本に触れさせながら、パラグアイでの植樹活動や、植樹・植林の師・宮脇昭先生(同会顧問)との出会いと、日本における同会の支部活動の様子が語られました。

アとして半年間レダで活動した諏訪泰弘君から「若い自分が、七十歳を過ぎても頑張っている先輩たちには負けられない、自分もレダの先輩たちのようになりたい」と、力強い決意の報告がありました。



高津啓洋講師。続いて青年中期ボランティアとして半年間レダで活動した諏訪泰弘君から「若い自分が、七十歳を過ぎても頑張っている先輩たちには負けられない、自分もレダの先輩たちのようになりたい」と、力強い決意の報告がありました。

その後、島田賢二青年局長から「会員募集のためのパンフレット紹介」の説明があり、継続的活動を

発展させるための熱い思いが語られました。締め括りは、当法人の中田欣宏代表理事による「レダにおける今後の展望」の発表。レダ開拓二十周年に向けた日本での取り組みや、レダ基地の完全な自立経済に向けた取り組みが説明されました。

プログラムの最後に、セミナースタッフの高橋容子さんによる「入会案内」と、各講師を囲んでの分科会が行われました。そして参加者の中から二名が今回のセミナーの感想と決意を発表し、午後四時十五分にすべてのプログラムを終了しました。

今回のセミナー全体の印象として、レダに関心をもち、レダに行きたいと熱望する青年が増えてきていること、長期ボランティアに参加した子供の姿に感動しセミナーに参加される親御さんが出てきていることです。現在鮮文大から三名の学生が、エビの養殖の手伝いでレダ基地に行っています。その中の一人の方のお母さんがセミナーに参加しておられました。またシニアボランティアとしてレダに行くことを決意している壮年も参加して下さいました。他

には東京の家庭教会の責任者が多忙な中、午後の時間に参加してくださいました。参加者の中には、研修室に入るや涙があふれて止まらなかったと述べる方もおられました。今後もこのようなセミナーを更に充実させて行きたいと思えます。皆様のご支援・ご尽力に感謝致します。実行委員長、後藤誠一記

一般社団法人 南北米福地開発協会 事務局

〒213-0001

神奈川県川崎市高津区

溝口3-11-15

岩崎ビル4F

電話: 044-829-2821

FAX: 044-829-2820

ゆうちょ銀行(旧一般会員会費納入)

記号10280 番号61349751

一般社団法人 南北米福地開発協会

E-メール: office@asd-nsa.com

ホームページ: https://asd-nsa.com

Facebook: https://www.facebook.com/ledaproject.jp/

会員種別

◆ 会員一口1000円/月

◆ 特別会員一口1万円/月

◆ 法人会員一口1万円/月

※いずれも口数は申込者が申告

会費は、毎月の引き落とし方式です。

会費振替用口座 ゆうちょ銀行

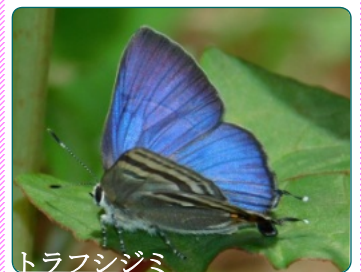
00290-5-113072

加入者名: シャ) 南北米福地開発協会

入会申し込みと同時に手続きをお願い申し上げます。それが確認でき次第、会員番号を確定し、ご案内いたします。

♥ 入会申込書は、左記の事務局にお申しつけください。ホームページからも入手できます。

お便り募集



トラフシジミ

読者の皆様からのお便りを募集します。本紙記事への感想や提案、皆様個人やご家庭での歩み、あるいはグループや支部での活動と関連写真、イラストなどをお待ちしています。宛て先は、事務局: office@asd-nsa.com へお願いします。